

カンキツ新品種『津之香』の特性と地域適応性

農業研究センター 天草農業研究所

研究のねらい

農林水産省果樹試験場口之津支場で育成された『津之香』の特性と天草地域への適応性について調査を行い、晩生カンキツ〔3月採収〕として果実品質、栽培面から有望品種の選定を行った。

研究の成果

1. 来歴

『津之香』は農林水産省果樹試験場口之津支場において『晴見』を母親とし、『興津早生』を父親とした交雑実生である。

2. 特性

(1) 樹性

樹勢はやや強く、樹姿は開張性である。枝しょうはやや長く密生する。葉の大きさは中程度で波状を形成し、翼葉の発達はみられなく、とげの発生もほとんどない。

(2) 結実性

花の大きさは中程度で、花柱がわん曲し、花粉の形成はほとんどない。適正摘果すると結果母枝も確保され、結実良好で豊産性である。

(3) 果実特性-1

果実の大きさは130-180g程度で、果形は扁円形で果形指数は130前後で清見に比べて高い、果皮の色は橙黄色ー橙色で12月中旬には完全着色となる。果面は清見るに比べかなり滑らかである。

(4) 果実特性-2

じょうのう数は12個程度で果肉はやや固いが、じょうのう膜は薄い。含有種子数は少なく無核果率は高いため単為結果性を有すると考えられる。

(5) 果実特性-3

果実品質は3月上、中旬までに樹上結実させると糖度は12-14度となり清見より高い。クエン酸は3月上・中旬には1%前後になる。

3. 適応地域（普及地域）

収穫適期は2月下旬～3月上旬である。したがって、樹上越冬ができる天草地域の年平均気温17℃以上の暖かい地域が適地である。

4. 栽培上の注意点

高接ぎ更新の際は温州ミカンの中間台が果実の特長がしやすい。

表1 果実肥大 (平成2年)

品 種		7.10	8.10	9.10	10.9	11.10	12.10
津之香	横径 (cm)	3.05	4.40	5.56	6.24	6.66	6.77
	縦径 (cm)	2.71	3.83	4.39	4.94	6.29	8.27
	指数	112.6	121.2	126.4	126.3	126.7	128.6
清 見	横径 (cm)	3.41	3.17	6.32	6.98	7.63	7.86
	縦径 (cm)	3.37	4.95	5.73	6.10	6.63	6.68
	指数	101.2	104.4	110.3	114.4	116.3	117.7

表2 年次別果実品質

年	品 種	1果平均重 (g)	果肉歩合 (%)	糖	クエン酸	糖度比	分析日
1989	津之香	127.2	84.1	12.8	0.99	12.93	3.30
	清 見	233.0	73.3	10.7	0.90	11.89	3.30
1990	津之香	180.0	80.6	12.2	1.02	12.98	4.2
	清 見	271.0	74.8	10.4	1.14	9.15	3.29
1991	津之香	135.3	81.3	14.1	1.08	13.06	3.10
	清 見	166.3	74.4	12.0	1.34	8.96	3.10

表3 時期別果実品種 (平成3年)

分析日	1果平均重 (g)	果肉歩合 (%)	糖	クエン酸	糖度比	果皮色 (分)
12.17	145.4	81.6	9.5	1.82	5.22	10
1.20	130.6	81.8	11.9	1.82	7.34	10
2.20	130.5	83.4	13.5	1.15	11.73	10
3.10	135.3	81.3	14.1	1.08	13.06	10
4.10	130.2	83.1	14.4	0.94	15.32	10

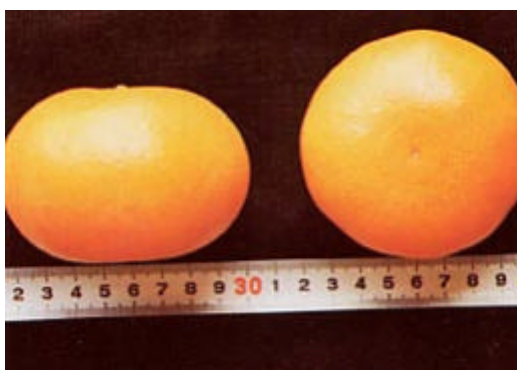


写真 津之香の果実